

木造十一面観音坐像(もくぞうじゅういちめんかんのんざぞう)

<概要>

- | | |
|----------|----------------------|
| 1 員数 | 1 軀 <small>く</small> |
| 2 所有者 | 宗教法人賢林寺 |
| 3 所有者の住所 | 小牧市藤島町居屋敷267 |
| 4 所在地 | 小牧市藤島町居屋敷267 |
| 5 時代 | 平安時代 |
| 6 概要 | |

像高78.6cm。

榿材かやざいの一木造¹いちぼくづくりで、両足部まで共木で彫出し、内刳うちぐりを施さない。肥満した体軀や張りの強い肉取り、鎬しのぎの立った衣文²えもんに平安前期彫刻の特色を示し、三日月形の伏し目や四角張った形態把握などより製作は9世紀後半ないし末と思われる。

近年知られた平安前期の特色をよく示す遺品であり、保存状態の良好さも貴重である。

一木造¹ 木彫像の主要部を一つの木材から彫出する技法。両腕や坐像の脚部を別材にする場合も該当する。

衣文² 衣のひだのこと。各時代の特徴が表れ、制作年代の判定に役立つ。



木造十一面観音坐像



木造十一面観音坐像 拡大